

「社会人基礎力」の活用展開

— 卒業研究のアンケート項目に活用 —

斎 藤 寧*

I. はじめに

現在、「社会人基礎力」は社会で注目されるようになり、検定に取り上げられ、いろいろな大学で、「社会人基礎力」の育成と評価の試行が見られるようになってきた。このことから、各大学が、学生の育成に、本当に苦勞しており、本気で、この課題に取り組もうとしている事がよく分かる。「社会人基礎力」をめぐる、大学間の具体的実践競争が展開され始めたと言っても過言ではない。

No.43論文の「「社会人基礎力」の展開」¹では、「社会人基礎力」を明確化し、その育成の観点から大学の授業等の体制のあり方を明確にして、大学への導入を促進することをねらいにして書いた。また、No.44論文の「「社会人基礎力」の詳細定義」²では、大学への導入を具体的に実現する事を促進するねらいで、12の能力要素全てに共通する熟達度のフレームワークを、提言し、それに基づき、12の能力要素全ての熟達度を詳細定義した。さらに、No.45論文では「「社会人基礎力」の詳細展開」³では、大学への「社会人基礎力」の具体的展開を幅広く可能にする事をねらいとして、12の能力要素全ての熟達度の雛型（活用しやすくするために具体的サンプル等をつけた実務ガイド）を提案した。現在、その雛形を活用して、大学では、「社会人基礎力」の教育実践を行って、何とか成功⁴させているところである。

そこで、本論文では、「社会人基礎力」を、新たな適用先として、卒業研究のアンケート項目に活用したので、その事例を紹介して、「社会人基礎力」が大学へ幅広く具体的に活用展開できる事を例証することにした。あわせて、「社会人基礎力」は単に現在や将来の能力を評価するものとしてだけではなく、過去の懐かしい思い出（小学校時代）を振り返り、心の核・素となるものを再発見するための強力なキーワードとなり得ることも発見できたので紹介する。

II. 卒業研究で相談を受けた

「小学校時代を思い出してみよう」をテーマとするチームから相談を受けた。先ずはそのチームのテーマの概要を述べてみる。

短大生達は、今後、厳しい就職戦線を乗り越えて、1～2年後に社会の荒波の中に出ていかなければならない。大げさに言えば、多くの短大生が、疲れた心理状態（不安・自信喪失・抑うつ状態）にある。

* 総合生活デザイン学科

従って、疲れた心理状態から少しでも脱却し厳しい社会の荒波の中に元気に出ていてもらいたい。最近、回想法という心理療法がある事を知った。それは、認知症の治療に効果的な心理療法で、過去の懐かしい思い出を振り返れば、心の核・素となる部分を再発見することができるという。自分の人生の歴史を振り返り、自分の存在の意味を見直し、あらためて自尊心を持てるようになっていられると言われている。効果として、不安感の軽減、意欲の向上、抑うつ症状の改善が可能だと言われている。この回想法を是非採用してみたい。回想の対象として、成長力や吸収力が著しいため、思い出が一番強烈な、小学校時代を選んでみたい。短大生が、小学校時代を回想し、心の核・素となるものを再発見して、生きる力の糧となるものを再認識できれば、疲れた心理状態から少しでも脱却し厳しい社会の荒波の中に元気に出ていくことができるかもしれない。そこで、卒業研究を組み立ててみた。

1. アンケートのターゲット

同世代の自分達・現代の小学生・小学校の先生にアンケートを取ってみる。同世代の自分達には小学校時代の回想録を作る—アンケートをしてみる。現代の小学生（最終年の小学6年生を対象）に対しては生々しい現実を調べるアンケートをしてみる。これらの現実は今後将来の思い出候補になるものと考えられる。小学校の先生に対しては、小学生と現実とに密接にふれあっておられる経験があるので、小学生の心を代弁してもらって、小学生のアンケート結果を場合によっては補完する。

2. アンケートの対象場面

3つの分野の「遊び」、「学校生活」、「学校行事」のそれぞれごとに、3つの局面「楽しかった」、「しんどかった」、「成長を実感できた」を考えて、合計9つの場面に分類する。

3. アンケート結果の分析

9つに分類した場面のアンケートを行い、その結果を分析して、その分析した内容をアンケート対象者中心にプレゼンテーションすれば、小学校時代を振り返り、心の核・素となるものを再発見して、生きる力の糧となるものを再認識できて、元気になってもらえることができるはずである。

この段階で、筆者に相談があった。相談の内容は、「心の核・素となるものを再発見して、生きる力の糧となるものを再認識するために、9つの場面でアンケート項目を作りたいがどうしたらよいか」という内容だった。

III. 「社会人基礎力」の活用をアドバイス

1. 仮説の設定

「社会人基礎力」は生きる力の糧となる根拠となる能力のことであり、心の核・素となるものを再発見するための強力なキーワードとなり得るといふ仮説を立てた。

2. アンケート項目に適用

2-1. 「社会人基礎力」を小学生にも分かる平易な表現にする

「社会人基礎力」の12の能力要素は小学生にとっては、理解しにくい表現や内容だと思われるので、誰にでも理解できるように、以下の7つの平易な能力表現に変えてみた。

①人とうまくやる, ②自ら進んでやれる, ③うまくやりとげる/最後までやりきる, ④皆と一緒に協力する, ⑤人を協力させる, ⑥苦しさを乗り越える/困難に突き当たる/困難を乗り越える, ⑦人からほめられる/人からしかられる/我慢する力がつく。

「社会人基礎力」とこの7つの能力要素の関係を図1に示した。

2-2. 9つの場面で, 7つの能力をキーワードを使ってアンケートの設計

アンケート対象場面を, 3つの分野の「遊び」, 「学校生活」, 「学校行事」のそれぞれごとに, 3つの局面「楽しかった」, 「しんどかった」, 「成長を実感できた」を考えて, 合計9つの場面に分類すると述べたが, その場面で, 生きる力の糧となるものを得ることができたことを再認識してもらえるようなアンケート項目を設計しなければならない。そこで, 「遊び」, 「学校生活」, 「学校行事」の3つの分野のそれぞれで, 「楽しかった」のはどんなことですか, 「しんどかった」のはどんなことですか, 「成長を実感できた」のはどんなことですかと, それぞれ, 平易にした7つの能力の中から選ばせるようなアンケート項目を考えた。つまり, 生きる力の糧となり, 心の核・素となるものを得た事を再認識させるアンケート項目のキーワードとして, 「社会人基礎力」を活用したわけである。

この内容を, 同じく図1に示した。また, 遊びの分野のアンケート用紙を, 図2に示した。

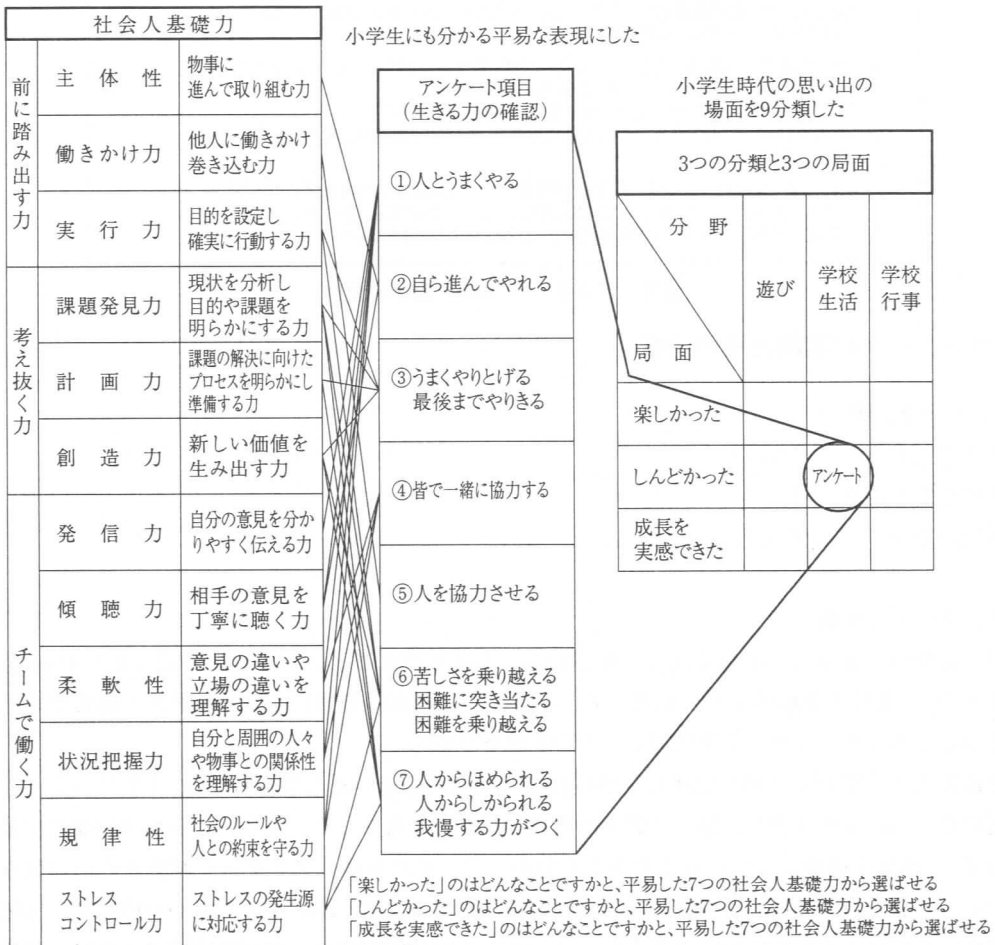


図1 社会人基礎力をアンケート項目に活用

小学校時代の思い出のアンケート(6年生用)

1. 小学校時代に、一番思い出に残った「遊び」を一つだけえらんで、それについて答えてください

- ① えらんだ「遊び」の名前を書いてください(例 おにごっこ)
()
- ② それは誰と一緒に「遊び」しましたか。一つだけえらんで、しるし()をつけてください
一人で遊んだ 同じ学年の友達と遊んだ ちがう学年の人もまじって遊んだ
- ③ その「遊び」は、家の中ですか、それとも外ですか。一つだけえらんで、しるしをつけてください
家の中で遊んだ 家の外で遊んだ
- ④ その「遊び」で、どんなことが「楽しかった」ですか。
 えらんで(たくさんえらんでもいいです)しるしをつけてください
人となかよくやれる 自分が進んでやれる 最後までやりきれ
みんなでいっしょにやる 人を協力させる 苦しくてもがんばれる
人からほめられる
- ⑤ その「遊び」は、どれくらい、楽しかったですか。一つだけえらんで、しるしをつけてください
大変楽しかった ふつうの楽しさだった あまり楽しなかった
- ⑥ その「遊び」をしているとき、どんなことが「しんどく、苦しかった」ですか。
 えらんで(たくさんえらんでもいいです)しるしをつけてください
人となかよくやる 自分が進んでやれる 最後までやりきれ
みんなでいっしょにやる 人を協力させる こまったことがおきる
人からしかられる
- ⑦ その「遊び」をしているときに、どれくらい「しんどく、苦しかった」ですか。
 一つだけえらんで、しるしをつけてください
大変しんどかった/大変苦しかった ふつうのしんどさ/ふつうの苦しさだった
しんどくなかった/苦しくなかった
- ⑧ その「遊び」により、どんなことが「成長」できましたか(しんばした、できるようになった)。
 えらんで(たくさんえらんでもいいです)しるしをつけてください
人となかよくやる 自分が進んでやれる 最後までやりきれ
みんなでいっしょに協力する 人を協力させる こまってもがんばれる
がまんする力がつく
- ⑨ その「遊び」により、どれくらい「成長」できましたか(しんばした、できるようになった)。
 一つだけえらんで、しるえらんで(たくさんえらんでもいいです)しるしをつけてください
大変成長できた ふつうの成長だった あまり成長できなかった

図2 アンケート用紙-遊びの分野

IV. アンケートの実施とその分析

1. アンケート対象

同世代の短大生	約140人
現代の小学6年生	約90人
小学校の先生	約10人

2. アンケートの分析

3つの分野の「遊び」、「学校生活」、「学校行事」のそれぞれごとに、3つの局面「楽しかった」「しんどかった」「成長を実感できた」を考えて、合計9つの場面に分類して、それぞれの場面での思い出を振り返ってもらうアンケートを実施し、その結果を分析した。

小学校時代の「遊び」、「学校生活」、「学校行事」の全てを思い出してもらおうと、「楽しい」だけでなく、途中でいろいろな「苦しい事」に突き当たり、それらを乗り越え、いろいろな小さい成功体験を積み重ねて、「成長を実感」していることがよく分かった。それらは、アンケート対象者の心に刻み込まれている「生きる力の宝物」である。それらの宝物を再認識して、心の中にしっかり持って、元気に新しい社会に出て行ってもらいたいと考えた。アンケートの分析内容を、遊びの分野は図3に、学校生活の分野は図4に、学校行事の分野は図5に示す。

3. 分析結果に基づきアンケート対象者に対してプレゼンテーション

アンケート対象者に、小学校時代を思い出して、心の核・素となるものを再発見して、生きる力の糧となるものを再認識できて、元気になってもらうために、分析結果の内容に基づきプレゼンテーションを行った。

3-1. 遊びの分野に関してプレゼンテーション

① 短期大学生に対して

「皆と一緒に協力する」、「人とうまくやる」、「最後までやりきる」の順で力がついたと、成長を実感していますね。それらは、皆さんの心に刻み込まれている「生きる力の宝物」です。それらの宝物を再認識して、心の中にしっかり持って、元気に新しい社会に出て行ってください。

② 小学6年生に対して

「人とうまくやる」、「皆と一緒に協力する」、「自ら進んでやれる」の順で力がついたと、成長を実感していますね。それらは、皆さんの心に刻み込まれている「生きる力の宝物」です。それらの宝物を再認識して、心の中にしっかり持って、元気に新しい社会に出て行ってください。

		短期大学生			小学6年生			小学校の先生		
		カウント	比率	ランク	カウント	比率	ランク	カウント	比率	ランク
遊びの種類	鬼ごっこ系	119	47%	1	22	24%	2	4	19%	3
	球技	45	18%	2	45	49%	1	8	38%	1
	その他	28	11%	3	11	12%	3	5	24%	2

		短期大学生			小学6年生			小学校の先生		
		カウント	比率	ランク	カウント	比率	ランク	カウント	比率	ランク
遊び楽しさ	人とのふれあい	81	18%	3	57	26%	2	14	48%	1
	自ら進んでやれる							3	10%	3
	うまくやりとげる	82	18%	2	23	10%	3			
	皆と一緒に協力する	132	30%	1	70	31%	1	10	34%	2

		短期大学生			小学6年生			小学校の先生		
		カウント	比率	ランク	カウント	比率	ランク	カウント	比率	ランク
遊びしんどさ/苦しさ	人とうまくやる							6	43%	1
	最後までやりきる	64	21%	2	19	23%	2			
	皆と一緒に協力する	45	15%	3				3	21%	2
	困難に突き当たる	84	28%	1	25	30%	1			
	人からしかられる				13	15%	3	2	14%	3

		短期大学生			小学6年生			小学校の先生		
		カウント	比率	ランク	カウント	比率	ランク	カウント	比率	ランク
遊成	人とうまくやる	86	18%	2	60	16%	1	12	60%	1
	自ら進んでやれる				32	8%	3			
	最後までやりきる	78	17%	3						
	皆と一緒に協力する	113	24%	1	42	11%	2	4	20%	2
	困難を乗り越える							2	10%	3

図3 アンケート分析-遊びの分野

3-2. 学校生活に関してのプレゼンテーション

① 短期大学生に対して

「最後までやりきる」、「自ら進んでやれる」、「困難を乗り越える」の順で、力がついたと、成長を実感していますね。それらは、皆さんの心に刻み込まれている「生きる力の宝物」です。それらの宝物を再認識して、心の中にしっかり持って、元気に新しい社会に出て行ってください。

② 小学6年生に対して

「自ら進んでやれる」、「最後までやりきる」、「困難を乗り越える」の順で、力がついたと、成長を実感していますね。それらは、皆さんの心に刻み込まれている「生きる力の宝物」です。それらの宝物を再認識して、心の中にしっかり持って、元気に新しい社会に出て行ってください。

		短期大学生			小学6年生			小学校の先生		
		カウント	比率	ランク	カウント	比率	ランク	カウント	比率	ランク
学校生活の種類	委員の経験	96	25%	2	61	71%	1	4	24%	2
	授業	111	29%	1	22	26%	2	7	41%	1
	宿題	96	25%	2	2	2%	3	3	18%	3
	試験							3	18%	3

		短期大学生			小学6年生			小学校の先生		
		カウント	比率	ランク	カウント	比率	ランク	カウント	比率	ランク
学校生活楽しさ	人とのふれあい				41	18%	3			
	自ら進んでやれる	122	20%	1	47	21%	1	7	35%	1
	うまくやりとげる	109	18%	2				4	20%	2
	皆と一緒に協力する				46	20%	2	4	20%	2
	人からほめられる	100	16%	3						

		短期大学生			小学6年生			小学校の先生		
		カウント	比率	ランク	カウント	比率	ランク	カウント	比率	ランク
学校生活しんどさ/苦しさ	自ら進んでやれる	84	16%	3	15	15%	3	4	22%	2
	最後までやりきる	101	20%	2	16	16%	2	2	11%	3
	皆と一緒に協力する							2	11%	3
	困難に突き当たる	151	29%	1	32	31%	1	8	44%	1

		短期大学生			小学6年生			小学校の先生		
		カウント	比率	ランク	カウント	比率	ランク	カウント	比率	ランク
学校生活成長	自ら進んでやれる	122	19%	2	54	21%	1	3	13%	3
	最後までやりきる	153	24%	1	44	17%	2	7	30%	2
	皆と一緒に協力する				43	16%	3			
	困難を乗り越える	116	18%	3				8	35%	1

図4 アンケート分析-学校生活の分野

3-3. 学校行事に関してプレゼンテーション

① 短期大学生に対して

「皆と一緒に協力する」、「人とうまくやる」、「最後までやりきる」の順で、力がついたと、成長を実

感していますね。それらは、皆さんの心に刻み込まれている「生きる力の宝物」です。それらの宝物を再認識して、心の中にしっかり持って、元気に新しい社会に出て行ってください。

② 小学6年生に対して

「皆と一緒に協力する」、「人とうまくやる」、「最後までやりきる」の順で、力がついたら、成長を実感していますね。それらは、皆さんの心に刻み込まれている「生きる力の宝物」です。それらの宝物を再認識して、心の中にしっかり持って、元気に新しい社会に出て行ってください。

		短期大学生			小学6年生			小学校の先生		
		カウント	比率	ランク	カウント	比率	ランク	カウント	比率	ランク
学校行事の種類	文化祭				2	2%	3			
	運動会	93	30%	1	14	16%	2	4	24%	2
	課外活動	77	25%	3	2	2%	3	4	24%	2
	修学旅行	89	29%	2	67	79%	1	8	47%	1

		短期大学生			小学6年生			小学校の先生		
		カウント	比率	ランク	カウント	比率	ランク	カウント	比率	ランク
学校行事楽しさ	人とのふれあい	139	21%	2	67	26%	1	7	29%	2
	うまくやりとげる	109	16%	3				3	13%	3
	皆と一緒に協力する	192	28%	1	65	25%	2	11	46%	1
	人を協力させる				33	13%	3			

		短期大学生			小学6年生			小学校の先生		
		カウント	比率	ランク	カウント	比率	ランク	カウント	比率	ランク
学校行事しんどさ/苦しさ	人とうまくやる							4	25%	1
	自ら進んでやれる				11	11%	3			
	最後までやりきる	64	14%	3	11	11%	3			
	皆と一緒に協力する	93	21%	2	11	11%	3			
	人を協力させる				14	14%	2	4	25%	1
	困難に突き当たる	109	24%	1	35	35%	1	3	19%	3

		短期大学生			小学6年生			小学校の先生		
		カウント	比率	ランク	カウント	比率	ランク	カウント	比率	ランク
学校行事成長	人とうまくやる	119	19%	2	62	21%	2	8	30%	2
	最後までやりきる	103	17%	3	42	14%	3	3	11%	3
	皆と一緒に協力する	163	26%	1	63	21%	1	9	33%	1

図5 アンケート分析—学校行事の分野

3-4. プレゼンテーションの総括

プレゼンテーションは2つの場所で行われた。一つは、小学6年生に対するアンケートで大変お世話になった、大野西小学校の浦田辰美校長と教員の方々に対して行われた。

浦田校長他教員の方々の感想は、大変好評で、小学6年生に対しても是非、説明したいと言われている。

た。また、「社会人基礎力」をアンケート項目に活用していた点についても、大変参考になったと言われていた。もう一つは、短期大学生に対するプレゼンテーションで、毎年1月に行われる卒業研究発表会の場で行われた。発表会で記入されたアンケート内容には、「小学校時代を思い出せて、なつかしかった」「自分が成長した内容が再認識できて元気がでた」「インタビュー内容やアンケートデータをうまくまとめてあり、分かりやすかった」「思い出は大切な宝物だと思った」等のような肯定的なコメントが記入されていた。総じて、初めての試みであったが、アンケート対象者に、小学校時代を思い出して、心の核・素となるものを再発見して、生きる力の糧となるものを再認識できて、元気になってもらう目的は、何とか成功⁵したと考える。また、生きる力の糧となり、心の核・素となるものを得た事を再認識させるアンケート項目のキーワードとして、「社会人基礎力」を活用したが、何とか使える手ごたえを得ることができた。

V. おわりに

本論文の目的は、「社会人基礎力」を、卒業研究のアンケート項目に活用したので、その事例を紹介して、「社会人基礎力」が大学へ幅広く具体的に活用展開できる事を例証することにあつた。また、「社会人基礎力」は単に、現在や将来の能力を評価するものとしてだけではなく、過去の懐かしい思い出(小学校時代)を振り返り、心の核・素となるものを再発見するための強力なキーワードとなり得ることを紹介することにあつた。本論文では、「小学校時代を思い出してみよう」という具体的な卒業研究テーマを通じて、「社会人基礎力」の活用事例を具体的に紹介できたので、本論文の目的を何とか達成できたものと考えている。

しかしながら、初めての試みでもあつたので、アンケート対象場面を9つに分類したがそれでよかったか、「社会人基礎力」を7つの平易な能力表現に変えたがそれで充分であったか、アンケート用紙の作り方は分かり易いものであつたか、等々まだまだ改善すべきところがある。今後の実践を通じてさらに、実用に耐える内容に改善して行く必要がある。

冒頭の文章の繰り返しになるが、現在、「社会人基礎力」は社会で注目されるようになり、検定に取り上げられ、いろいろな大学で、「社会人基礎力」の育成と評価の試行が見られるようになってきた。このことから、各大学が、学生の育成に、本当に苦勞しており、本気で、この課題に取り組もうとしている事がよく分かる。「社会人基礎力」をめぐる、大学間の具体的実践競争が展開され始めたと言っても過言ではない。

VI. 参考文献と脚注

- 1 齋藤 寧, 「社会人基礎力」の展開, 比治山大学短期大学紀要第43号 (2008), P43~P59
- 2 齋藤 寧, 「社会人基礎力」の詳細定義, 比治山大学短期大学紀要第44号 (2009), P21~P29
- 3 齋藤 寧, 「社会人基礎力」の詳細展開, 比治山大学短期大学紀要第45号 (2010), P15~P24
- 4 成功の根拠はという質問に答えて, 論文には書かれているので, くどくなる事をお許しいただき, 二つを根拠として説明する。①筆者のゼミ生の数は, いつも, 他のゼミと比べて圧倒的に多いが, 就職内定者数が他のゼミに比べて圧倒的に多く, それらは数字として表れている。その最大の理由は, ゼミ生を「社会人基礎力」を活用して適確に指導しているからだと確信しているからである。②「社

会人基礎力」の教育は、生活経営学の授業で行っているが、毎日とる、授業アンケートの結果は、有益であるという感想が圧倒的に多く、また、この授業の授業アンケートの肯定的評価は93%を得ていて、これも数字として現れている。この2つの根拠が成功の根拠である。

- 5 成功の根拠はという質問に答えて、論文の内容と重複するので、くどくなる事をお許しいただき説明する。①最大の根拠は、大野西小学校の浦田辰美校長と教員の方々から、取材を許可され、プレゼンテーションに対して好評価を得ていることである。今日、小学校の取材は、セキュリティー等の問題で、知り合いでもなんでもない、卒業研究ごときの依頼では、ほとんど許可されない。しかし、「社会人基礎力」の内容を説明して許可を得る事ができた。また、アンケート結果のプレゼンテーションでは、特に、小学校時代の意義を再認識できた事と「社会人基礎力」をアンケートに活用している点で、小学校の現場で、大変好評だった事が成功の根拠である。②卒業研究の発表のゼミ内の予行演習では、ゼミ生から好評価を得た。また、卒業研究発表会の06106室の1年生のアンケートを全て回収しており、その分析結果でも好評価を得る事ができた。この2つの根拠が成功の根拠である。

(受理 平成22年10月31日)

Abstract

Practical use deployment of “basic ability to work in society”

— utilization for the questionnaire item of graduation research —

Yasushi SAITOU*

I utilized “basic ability to work in society” for the questionnaire item of graduation research as a new practical use field. There are three purposes of a questionnaire. The 1st is getting a junior college student to look back upon one’s nostalgic elementary school days. The 2nd is getting a junior college student to recognize the core portions of capability or character formed through the experience at that time through recollection. The 3rd is giving a junior college student confidence and getting him to leave for vigorously new society as a result. The purpose of the questionnaire was successful.

The practical use range of “basic ability to work in society” does not remain only in a means to only evaluate the present and future capability. We recognize the core portions of capability or character which recollected the past and were formed through experience. I have checked that “basic ability to work in society” could serve as a powerful means at that time. Now, I have illustrated that “basic ability to work in society” could utilize in a broad field in a university.

(Received October 31, 2010)

* Department of Comprehensive Human Life Studies